

昭和61年度活動報告(案)

一、はじめに

昨年四月一日から実施された医療費の改定で、人工腎臓は一昨年に続き二年連続で切り下げられました。度重なる透析医療費の切り下げは、医療供給体制への不安のみならず、合理化に伴う医療そのものの質にも影響するのではないかと懸念されます。

一方、昨春から始まった児童扶養手当の打ち切りは、八月の現況届の分から全面的に見直しが行われ、十二月に入ってからは、「うちも打ち切られた」という連絡が事務局に多数寄せられています。また、昨年四月からの新年金法施行に伴う、国民年金障害年金既裁定者の有期診断書提出に際し、支給停止になった事例が事務局で把握しているものでも数例ありました。

幸い障害年金に関しては、良い方向で解決出来ました。が、児童扶養手当に関しては、今後も粘り強

い運動を続けていく必要があります。

このような医療、福祉に対する厳しい攻撃のなかで、私たちは、会員の医療とくらしを守るための一年、第十四回総会で決められた活動方針に基づき運動を進めてきました。

二、主な活動と成果

(1) 都に対する要請活動

東腎協は昨年七月十日、昭和六十二年度東京都予算の編成にあたり、「腎臓病患者の実態を把握し、東京都における腎疾患総合対策を確立するため、患者代表を含めた対策委員会を設置すること」など十九項目の要望書を提出し、衛生局、福祉局、労働経済局、総務局、教育庁、養育院に対して要請しました。

この中で、腎疾患総合対策委員会の設置については、これまで、重点項目として強く要望してきました。

したが、その前段としての「東京都腎不全研究会」が昨年十月に設置されました。しかし、この研究会はあくまでも研究・検討機関で一応の評価はできるものの、今後は早期に「腎疾患総合対策委員会」へ発展させるよう運動を強めていく必要があります。また、六十一年度から要望していた多摩老人医療センター（昨年七月オープン）内での人工腎臓は、六十二年度早々四床が稼働態勢に入ることになっていきます。

一方、十二月二十六日発表された六十二年度都予算の知事原案では腎臓及び角膜移植対策として六百万円、都立大久保病院改築のための小休止による代替措置として本年四月開設予定の同駒込病院腎不全センターの管理運営費三億一千六百万円が予算化されています。また、福祉局関係では、都の心身障害者福祉手当の増額（六十二年十月から五百円アップの一万円）が決まりました。

(2) 児童扶養手当打ち切り

問題

従来より透析患者を父にもつ家庭へ支給されていた児童扶養手当

の打ち切りが、一昨年あたりから全国的に実施されています。これは、総務庁が六十年七月、「児童扶養手当の業務運営に関する地方監察結果に基づく改善意見」を出したのを受けた厚生省が、同年十月九日付で、各都道府県宛に通知を出して以来特に強まり、都においても昨春から「打ち切り」が報告されています。

東腎協では昨年四月十日、衛生局長宛の要望書を提出し、さらに同七月十日の予算要請行動に際しても打ち切らないよう要望してきました。これに対して東京都は、働いているにもかかわらず、働ける状態であれば支給の対象とならず打ち切るという方針で、十二月に入ってからは、会員から「打ち切り」の報告が相次ぎました。

このような中で東腎協は、各患者会に対し①打ち切られた人の人数②異議申し立ての希望者を照会しました。そして、この実態調査をもとに本年一月二十九日、役員、会員、家族十八人が参加して対都交渉を行いました。しかし、東京都は、国の施策であり都独自の解釈は許されないと理由で、当初の方針を譲りませんでした。

東青協では、働いていない人だけにでもこの制度を続けるよう、九人の異議申立て希望者の代理人となつて二月五日、東京都知事宛に異議申立てをしました。現実には非常に厳しい状況ですが、こうした行革による弱者きり捨てに対して今後とも粘り強く運動を進める必要があります。

(3)「国民年金」障害年金既

裁定者の支給停止問題

昨年七月、国民年金の障害年金二級を受給している会員より、五月の再認定で診断書を提出したところ、「国民年金法別表不該当のため」という事由で支給停止になったという報告がありました。この事例では診断書の臨床所見、腎機能検査成績ともに認定基準を満たしており、また、障害の程度が軽くなったとも考えられず、支給停止の決定は不当であるとして不服審査請求を行いました。九月になってまたしても棄却の決定書が送られてきました。

その後も東青協で把握したもののだけでも同様の「支給停止」が数例あり、全青協へ報告するとともに東京都に強力に働きかけまし

た。その結果、不服審査請求棄却分も含め、全例が継続して受給できることになりました。また、表面化していないものについても再度の見直しを約束しました。

(4)都議会請願について

東青協は昨年七月、「腎臓病の予防をはじめとする腎疾患総合対策の早期確立を要望する」都議会請願署名運動に取り組みました。各会、各会員の努力の結果、二万六千三百四十三人の署名が集まり、自民党、公明党、共産党、社会党、民主クラブの衛生労働委員五人に紹介議員を依頼しました。そして、八月二十八日に都議会議員会局へ提出、受理され、九月十九日の第三回定例会議で衛生労働委員会へ付託され、現在審議中であります。

最近の腎臓病に対する医学的社会的対策の前進により、透析患者は毎年六千人以上のペースで増え続け、すでに全国では七万人、都内でも八千人を超えているものと推定されます。

このような急激な患者増は、医療保険財政を始め透析医療供給体制など様々な面に深刻な影響を及

ぼしており、透析患者十人八人時代の到来を目前にして、腎臓病の予防対策、透析医療供給対策、腎移植普及対策、腎疾患医学研究、患者の生活保障、社会復帰対策など総合的な対策の確立は急務となっております。

この都議会請願署名運動は、厚生省が昭和六十年度に「小児慢性腎疾患の予防・管理・治療に関する研究班」を、さらに、六十一年度には「腎不全対策推進会議」を発足させたのを受けて、東京都においても早期に腎疾患総合対策確立のための方策を取るようこの運動を進めました。

(5)腎バンク登録者拡大街頭キャンペーン

第六回腎バンク登録者拡大全国いっせいの街頭キャンペーンは昨年十月五日、全国二百七十八カ所に一万二十七人が参加して行われました。東青協では中央区数寄屋橋公園、国電八王子駅前二カ所で行い、会員・家族・医療スタッフなど二百二人が参加しました。

前回好評だった上野公園が、台東区のフェスティバルのため借用できず、急ぎよ、都・衛生局に頼

み数寄屋橋公園を確保しました。数寄屋橋公園は場所が狭く、そのため、専門医や看護婦による腎臓病相談や血圧測定などは出来ませんでした。東青協独自でカットパンや風船などを準備して、宣伝効果を高めました。また、八王子会場では看護婦による血圧測定も行いました。

一方、これまでの街頭キャンペーン運動が実つて、厚生省は六十一年度から「腎移植推進月間」を設け、第一回目的の「腎移植推進国民大会」が、全青協のキャンペーンの前日である昨年十月四日に日比谷公園野外小音楽堂で開かれました。このことにより、腎移植推進はいよいよ国がらみ行政がらみとなりました。そして、この大会には斎藤厚生大臣、鈴木都知事も出席され、その後に行われた数寄屋橋公園でのキャンペーンでは、行政関係者や東青協会員などと共にチラシを配布しました。この国民大会にも東青協から八十四人が参加しました。

こうした運動の結果、東京の腎臓提供者登録数は、キャンペーン前の九月の百四十五人に比べ、十月は三百二十八人と倍以上に増え

ています。また、全国集計では、昭和六十二年一月現在十四万四千三百五十九人で、前年同月から四万二千九百人増と大幅に増えていま

(6)二つの国会請願署名運動について

東腎協では、今年度も全腎協と日本患者・家族団体協議会(日患協)の二つの国会請願署名・募金運動に取り組みました。各会、各会員の積極的な運動の結果、全腎協署名数三万三千六百三十三人、日患協署名数三万一千七百二人、募金額二百七万一千二百九十六円と署名数、募金額とも昨年度を上回る成績でした。

全腎協の国会請願は本年二月十日に行われ東腎協から十六人(全国で百三十八人)が参加して衆・参両院の社会労働委員十人と他の委員一人の合計十一人の先生方に紹介議員となつていただくようお願いしました。全腎協の国会請願は、過去数多くの成果をあげてきましたが、今年度から始まつた腎移植推進月間も最近の成果の一つです。また、昭和五十三年から始まつた地方腎移植センターの整備計

画は、本年一月に関東、信越、四国各ブロックに一カ所ずつ指定になり、当面の目標である十四カ所体制が完成されました。このうち関東ブロックでは、虎の門病院が東京(二十三区)・神奈川地域の担当施設として指定になりました。

日患協の国会請願は二月十七日に行われ、東腎協から三人(全国で五十三人)が参加して衆・参両院の社会労働委員七十一人に紹介議員になつていただくようお願いしました。

なお、募金額二百七万一千二百九十六円のうち七十五万九千四百円を二月十七日全腎協に納入しました。

(7)国立王子病院の統合問題について

厚生省は昨年一月九日、全国二百三十九カ所の国立病院・療養所を統廃合して、七十四カ所に削減すると発表しました。この発表で国立王子病院は、国立立川病院と統合して立川に防災病院を作るとなっています。

王子病院の腎友会と王子病院をセンター病院とする二腎友会は、

早くから情報をつかみ、昭和六十一年十一月十日の三腎友会合同臨時總會で存続の運動を決定しました。これを受けて東腎協でも昨年一月十二日の三役会議と一月十九日の常任幹事会において、王子病院の存続運動を決定しました。

その後三腎友会は、東腎協・全腎協と協力して、地元出身の国会議員や東京都衛生局などへの運動を強めてきました。今年度に入ってから、昨年三月一日の「国立王子病院存続・拡充集会」に東腎協を含め、患者十一名が参加しました。

全腎協においては、昨年五月二十九日の昭和六十二年度予算陳情において、厚生省国立病院課に対して王子病院の存続を陳情しました。また、本年一月二十九日には、全医労王子支部の国会請願に東腎協からも参加し、地元出身国会議員や秘書に要請を行いました。この統廃合の計画は十年かけて行い、三年ごとに見直すことになっているので、私たちは統廃合ではなく存続・拡充を求め、当面、国立病院・療養所の譲渡に関する法案の成立に反対し運動を強めていきます。

(8)就職活動について

国際障害者年を契機として、昭和五十六年度(五十七年四月採用)から行われている、東京都及び特別区における身体障害者を対象とする別枠採用で腎機能障害者は、特別区において初年度に二人が採用になつて以来、六十年代(六一年四月採用)も三人が採用となり、合計十八人(内一人は辞退、一人は移植者)となりました。

一方、東京都においては、当初は腎機能障害者の採用はありませんでしたが、私たちの強い要望の結果、五十九年度に腎機能障害者として初めて移植者が採用になり、六十年代も移植者が一名採用になりました。

また、昨年十月二十三日、都・労働経済局職業安定部の要請を受けて、障害者職業紹介業務担当職業指導官及び一般職員の業務研修会に役員二名が出席しました。

労働経済局の研修会には、五十八年、五十九年にも出席しており、今回も都内十七カ所の公共職業安定所の担当者に対して、「内部障害者の特性と職業紹介上の配慮について」というテーマで、腎臓疾患

者や透析患者の実態について理解を深めてもらうよう訴えてきました。こうした努力もあって、昭和六十年度に職業安定所を通じて四十四人の透析患者が一般企業に就職しています。

(9) 学習交流会「会活動をさかんにするために」を開催

昨年七月二十日、新宿区戸山の戸山サンライズにおいて学習交流会「会活動をさかんにするために」を開催、二十三の患者会から四十五人が出席しました。

会はシンポジウム形式で進められ、高橋副会長の基調報告の後、慈秀病院若葉会、腎研友の会、調布病院腎友会、代々木病院腎友会の方にシンポジストになっていただき、各会の活動内容などを報告してもらいました。そして、その後、会場の参加者を交えて活動内容を項目別に討論しました。

東腎協は結成以来、全腎協と共に腎臓病患者の医療と暮らしを守る運動を進めてきました。そして、透析医療費の実質無料化を始め多くの成果をあげてきました。こうした活動を支える最も大切な基礎

となる組織は、病院単位の患者会であることはいうまでもありません。

最近幾つかの会で活動不足や役員間の対人上のトラブル、また、新旧会員間の意識のギャップなどにより会活動が困難になっている報告が寄せられており、今回の学習交流会は、会活動のあり方を探るよい機会となりました。

(10) 会員交流会について

東腎協では多様化している会員のニーズに、会員交流会のあり方について検討を進めてきました。その結果、新たな試みとして昨年十一月九日、新宿区のシチズンポウルにおいて第一回東腎協ポウリング大会を実施しました。当日は、選手として十九名の患者会から五十二人、準備のための役員や選手の応援などに二十人、合計七十二人が参加しました。ポウリング大会ということで、従来の交流会の参加者とは違う層の参加が得られ、その意味で成功であったといえます。

また、昨年七月十三日に多摩障害者スポーツセンターで開かれた交流会には、五十二人が参加しま

した。この交流会は、①会活動について②医療について③東腎協について④生き甲斐について⑤福祉について⑥長期透析について⑦婦人特有の問題についての七つのグループに分かれて行われ、中味の濃い話し合いができたと好評でした。

(11) 市区町村の福祉制度調査について

東腎協では昨年五月から、各区市町村が独自に行っている腎臓病患者に関する手当と福祉タクシー、ガソリン代助成について、実行委員会を設けて調査を行いました。調査の方法としては、まず、各市区町村へアンケート調査を行い、回答が得られなかったり、不明な点がある区市町村へは直接出向いて調査しました。この調査のとりまとめには時間と努力を要しましたが、委員の努力により「東腎協」六十四号で発表することができました。

(12) 会員数三千七百人を超える

会員数は昨年度末で、三千五百六十七人(患者会数六十九)でし

たが、この一年間で三千七百二十一人(患者会数七十一)に増えしました。この中には新規に入会した患者会がある反面、会員の協力が得られず、役員になった人が孤立してやる気を無くしたなどの理由で、退会する患者会もありました。また、未加入の病院への働きかけについては、幾つかの病院に働きかけを行いました。人的な問題で東腎協入会には至りませんでした。一方未組織の個人会員は、三百三十三人を数え、その組織化も大きな課題となっています。

(13) 機関誌「東腎協」を定期発行

東腎協は今年度も機関誌「東腎協」を定期発行し、会活動の状況や会員の体験や意見などを掲載し、その役割を果たしました。

六十一号では昭和六十年七月に開いた「腎疾患総合対策」学習会での国立療養所下志津病院院長の森和夫先生の講演内容を掲載しました。六十二号では昨年四月六日に開催された第十四回総会の記念講演、小田原内科循環器クリニック院長・張光哲先生による「透析患者の運動療法」や児童扶養手当

打ち切り問題を集めました。六十三号では昨年七月二十日の学習交流会「会活動をさかんにするために」の詳報をお伝えしました。そして、六十四号では、各市区町村福祉制度の単独事業一覧表を掲載しました。

(14) 事務所を独立

今年度は会員の皆さんのご理解を得て、会費を年間二千四百円から三千六百円に値上げしたことにより、長年の念願であった事務所の独立を果たすことができました。

また、人的な面でも、半専従の事務局次長を採用するなど事務局体制は一段と強化され、月曜日から土曜日までの六日間事務所をあげる体制が整いました。そして、事務機器に関してもワードプロセッサや複写機を導入し、一層の効率化を計りました。

(15) 全腎協の活動に積極的に参加

全腎協第十六回(結成十五周年記念)総会は昨年五月十八日、千代田区の日本教育会館で開かれ、全国から会員・家族・医療関係者など六百十九人(内東腎協関係は

二百八人)が参加しました。東腎協ではこの総会のため、実行委員会を作り全面的に協力し、成功させました。また、この総会のため東京都、特別区協議会、市長会へ助成金を申請、合計百三十六万円を受けることができました。東腎協は、総会当日も受付、接待、販売、場内整理、救護、記録など総会の運営に協力しました。

関東ブロック会議は、昨年六月七日から八日に埼玉県秩父市で開かれた第十九回の会議に二人、十一月六日から七日にかけて五反田で開かれた第二十回の会議には五人が参加しました。これらの会議では島しょ透析問題や児童扶養手当打ち切り問題などについて討議しました。

また、昨年七月十二日から十三日に五反田で開かれた地域難病連担当者交流会にも役員一名が参加しました。

全腎協の役員としては、石川会長が副会長として、一ノ清副会長が幹事として、草間事務局次長が会計監査として、山崎常任幹事が会長として、小林孟史常任幹事が事務局長としてそれぞれの立場で活躍してきました。

その他、結成十五周年を記念して行われた実態調査にも協力しました。

(16) 他団体との連携

最近の医療・福祉に対する厳しい状況の中で、全腎協を始め全国の患者・家族団体の声を政治に反映するための要望の統一組織である日本患者・家族団体協議会(略称・日患協 JPC)が昨年六月十五日、東京で結成されました。この結成総会に東腎協からも役員六人が出席しました。また、十一月二十二日から二十三日に熱海で開かれた日患協全国交流会にも役員五人が参加しました。

東腎協が加盟している東京難病団体連絡協議会(略称・東難連)は、今年度も平沢副会長が会長を務め、東京都の委託事業である難病相談や都庁各局、都議会各党への要請、陳情をしてきました。十二月二十六日発表された六十二年度東京都予算知事原案では難病公費負担の対象疾病拡大として、特発性門脈圧亢進症が算化されました。また、在宅の難病患者のために在宅難病患者訪問診断が新規事業として認められました。

昨年八月二十四日に新宿で開いた東難連主催の腎臓病医療相談会には、東京を中心に三十二人の方が受診されました。東腎協は、当日会場で受付や進行に十人が出席しました。相談医としては、帝京大学第三内科教授の小出桂三先生、東京女子医大腎センター内科助教授の詫摩武英先生、北里大学腎科助教授東間敏先生、北里大学腎センター助教授の酒井科先生、それに、栄養相談に慶応大学情報センターの山下光雄先生のご協力を得ました。

国際障害者年東京都連絡協議会では、福祉のまちづくり整備指針試案作成のため、内部障害者の立場から意見を述べてきました。

三、おわりに

東腎協は、この一年間で内部的には、事務所を独立させ事務局次長を採用するなど事務局体制が一応整ったこと、全腎協総会を成功させたこと、都議会請願署名運動に取り組んだこと、会員交流に一つの新しい方向に踏み出したこと、区市町村の福祉調査を行ったことなど活発な活動ができました。その反面、地域の活動について

ては、多摩の一部で幹事交流会を開いたり、未加入の病院を訪問するなどの活動に止まり、来年度への課題となりました。

一方、東京都への要請活動では、腎疾患総合対策委員会への足掛かりとなる「東京都腎不全研究会」が設置されたことは、大きな前進といえます。また、腎バンクキャンペーンについても六十年から、東京都との協力体制が取れるようになるなど、私たちの運動は着実に成果をあげています。

私たちは、こうした成果に自信を持ち様々な困難を乗り越えて、いっそうの団結を計り、今後とも私たちの運動を進めて行きましよう。

文書発言もできます

東腎協規約第六条で、総会にたいして文書による発言も認められています。

なお、総会議案にたいする意見のある方は、封書、はがき等別紙に書いて、三月末日(必着のこと)までに東腎協へお送り下さい。

△送り先▽

〒161 東京都

東腎協事務局

昭和61年度主な活動記録

〔昭和61年〕

3月

- 1 国立王子病院存続・拡充要求集会参加(草間、泉山、他9人)
- 1 2 全腎協運営委員会出席(石川勇吉、泉山)
- 2 新事務所へ引越す
- 5 第16回幹事会報告
- 9 第16回幹事会報告
- 9 2月分収支決算(草間、竹田)
- 11 『東腎協』No60発送
- 13 都庁訪問(森)
- 16 第82回常任幹事会開催(15人)
- 編集会議開催(泉山、加藤、木村)
- 会計監査(草間、山田、桜井)
- 『国立王子病院を守る会』結成準備会参加賛同書発送
- 31 『東腎協』No61編集(加藤)
- 22 岡山県腎協第12回総会へメッセージ発送
- 22 23 全腎協幹事会出席(泉山、一ノ清、高橋、柳、石川)
- 23 三役開催(泉山、一ノ清、高橋、柳)
- 27 国際障害者年東京都連絡会出席(平沢)
- 29 東難連運営委員会出席(平沢、草間)
- 30 都職労自治研集会出席(森)
- 30 全腎協第16回総会実行委員会開催(29人)
- 31 『東腎協』No61編集(加藤)

送 第82回常任幹事会報告発送

20 衛生局、福祉局、労働経済局、都議会各派、都職労へ総会案内状持参(森、草間)

4月

- 1 愛知県腎協第17回総会へメッセージ発送
- 3 東腎協総会の議事について打合せ(井上、宮崎)
- 3 都立大久保病院腎不全センター移転の件で小倉先生と打合せ(泉山、森、糸賀、石川)
- 全腎協総会の現地打合せ(小林、栗原、泉山、森、草間)
- 岩手県腎臓病の会第8回総会へメッセージ発送
- 5 長野県腎協第14回総会へメッセージ発送
- 6 東腎協第14回総会開催(13人)
- 8 秋田県腎友会第14回、広島県腎協第11回、鹿児島県腎協第11回の各総会へメッセージ発送
- 10 総会のお礼に衛生局、福祉局、労働経済局、都議会各派を訪問(石川、森)
- 11 福社局児童福祉部育成課へ児童扶養手当に関する要請書を提出(石川、森)
- 11 福井県腎友会第14回、宮崎県腎協第14回の各総会へメッセージを発送
- 11 コピー、ワープロをリースで設置
- 12 『全腎協』No84発送準備(竹田、石川みき)
- 12 京腎協第16回総会へメッセージ発送
- 15 3月分収支報告書作成
- 16 『全腎協』No84発送
- 16 『東腎協』No61校正(加藤)
- 16 茨城県腎協15周年記念総会へメッセージ発送
- 20 第83回常任幹事会開催(21人)
- 23 都・障害福祉部計画課小林主査訪問、全腎協第16回総会補助金及び名義申請書類一式提出(森、小林)
- 24 特別区協議会議事第一部和田主査訪問、全腎協総会賛助金請求書提出(森、小林)
- 24 常任幹事会報告発送
- 24 島根県腎協第11回総会へメッセージ発送
- 26 東難連運営委員会出席
- 26 1 27 全腎協運営委員会出席(石川勇吉、泉山、小林)
- 5月
- 1 『東腎協』No61、『全腎協』No85発送
- 2 『全腎協』No85患者会分発送(石川みき)
- 2 香川県腎臓病の会第13回総会へメッセージ発送
- 6 身体障害者総合スポーツセンター開所式出席(石川勇吉)
- 8 北海道腎協第9回総会へメッセージ発送
- 10 静岡県腎友会第8回総会へメッセージ発送
- 10 会計4月決算(竹田)
- 11 全腎協総会第3回実行委員会開催(21人)
- 12 都・障害福祉部計画課小林主査訪問、全腎協総会の補助金・後援名義許可書受領(森)
- 13 石川県腎友会第15回、福岡県腎協14回、徳島県腎協第8回の各総会へメッセージ発送

- 20 財団法人特別区協議会より二十万円入金
- 19 全腎協総会準備(石川みき、牧山)
- 18 4月分収支報告書作成(竹田)
- 17 全腎協総会準備(石川勇吉、高橋、井上、小泉)
- 16 都・障害福祉部訪問 全腎協総会補助金の件で久保田部長に挨拶(石川勇吉、小林)
- 15 兵庫県腎友会第16回総会へメッセージ発送
- 14 東京都市長より十三万円入金
- 13 全腎協結成15周年記念祝賀会受付業務及び出席(12人)
- 12 全腎協第16回総会開催(東腎協関係20人)
- 11 全腎協第16回総会の御礼に都・障害福祉部及び医療福祉部を訪問(森、泉山、小林)
- 10 大分県腎協第8回、広島県腎友会第17回、千葉県腎協第16回、岐阜県腎協第16回、熊本県腎協第15回、栃木県腎協病者友
- 9 会第12回の各総会へメッセージ発送
- 8 東京都より全腎協総会の補助金として百万円入金
- 7 『東腎協』No62編集(加藤)
- 6 東難連運営委員会出席(平沢、草間)
- 5 第84回常任幹事会開催(16人)
- 4 福祉制度の調査会議(石川みき、井上、草間、小泉)
- 3 関東ブロック各県並びに東京ボランティアセン
- 2 ターへ全腎協総会の礼状を発送
- 1 第84回常任幹事会報告作成
- 0 特別区協議会並びに市長へ全腎協総会の助成金に対する礼状を発送
- 0 帝京大学第三内科教授小出先生へ医療相談会への協力依頼状を発送
- 0 第84回常任幹事会報告
- 0 群馬県腎協第14回総会へメッセージ発送
- 0 東腎協規程集校正
- 0 区市町村の福祉制度ア
- 0 ケイト作成
- 0 福島県腎協第17回総会へメッセージ発送
- 0 6月
- 0 『東腎協』No62編集(加藤)
- 0 厚生省の腎不全対策推進会議に小林全腎協事務局長が委員として初出席
- 0 区市町村福祉制度アンケート発送(井上)
- 0 埼腎友会第15回総会へメッセージ発送
- 0 会計記帳(竹田)
- 0 7/8 関東ブロック会議出席(石川勇吉、高橋、柳、泉山)
- 0 昭和62年度東京都予算に関する要請文を衛生局、福祉局、労働経済局、総務局、教育庁、養育院へ提出(森)
- 0 富山県腎友会第16回総会、山口県腎友会第11回総会へメッセージ発送
- 0 日患協結成総会出席(柳、森、草間、竹田、石川みき、泉山、小泉、小林)
- 0 7月
- 0 東難連都庁要請出席(石川勇吉、平沢、森、糸賀)
- 0 『全腎協』No86、都議会請願用紙、東腎協規程集発送
- 0 各区市町村福祉調べ(石川みき)
- 0 各区市町村福祉調べ(石川みき)
- 0 昭和62年度東京都予算に関する要請行動(15人)
- 0 会計記帳(竹田)
- 0 12/13 地難連担当者交流会議出席(石川勇吉、草間、泉山、小林)
- 0 13 会員交流会開催(52人)
- 0 14 『東腎協』No62入稿(加藤)
- 0 張先生へお礼の手紙(総会の原稿)発送
- 0 16 医療相談会協力医師へ依頼状発送
- 0 17 6月決算(竹田)
- 0 19 宮城県腎協第15回総会へメッセージ発送
- 0 20 東難連懇談会出席(平沢)
- 0 20 各区市町村福祉制度調査会議(草間、石川みき、井上、小泉)
- 0 22 学習交流会開催(45人)
- 0 22 福祉制度調査会で
- 0 23 山梨腎友会15回総会へメッセージ発送
- 0 21 東難連運営委員会出席(平沢、草間)
- 0 22 第85回常任幹事会開催(20人)
- 0 24 各区市町村福祉制度調査会議(草間、石川みき、井上、小泉、林田)
- 0 24 常任幹事会報告作成
- 0 24 全腎協第16回総会の事業報告ならびに収支報告を都・福祉局へ発送
- 0 25 全腎協第16回総会の事業報告ならびに収支報告を特別区と市長へ発送
- 0 26 第85回常任幹事会報告発送
- 0 26 都庁要請資料作成
- 0 28 『全腎協』No86発送準備
- 0 28 全腎協運営委員会出席(石川勇吉、泉山、小林)
- 0 29 会員交流会準備会開催(14人)
- 0 30 『全腎協』No86発送準備
- 0 3 東難連都庁要請出席(石川勇吉、平沢、森、糸賀)
- 0 31 『全腎協』No86、都議会請願用紙、東腎協規程集発送
- 0 4 各区市町村福祉調べ(石川みき)
- 0 8 各区市町村福祉調べ(石川みき)
- 0 10 昭和62年度東京都予算に関する要請行動(15人)
- 0 11 会計記帳(竹田)
- 0 12 13 地難連担当者交流会議出席(石川勇吉、草間、泉山、小林)
- 0 13 会員交流会開催(52人)
- 0 14 『東腎協』No62入稿(加藤)
- 0 16 張先生へお礼の手紙(総会の原稿)発送
- 0 17 6月決算(竹田)
- 0 19 宮城県腎協第15回総会へメッセージ発送
- 0 20 東難連懇談会出席(平沢)
- 0 20 各区市町村福祉制度調査会議(草間、石川みき、井上、小泉)
- 0 22 学習交流会開催(45人)
- 0 22 福祉制度調査会で

- 市役所訪問及び電話連絡
(井上)
- 26 『東腎協』 No.62校正(草間)
- 30 甲斐郡議(公明党)に都議会請願についてのお願いと62年度都・予算要望書提出(森)
- 31 福祉制度調査で小金井市役所訪問(小泉)
立川クリニクの患者さんと患者者活動について面談(竹田、井上)
- 8月
- 1 福祉制度調査で武蔵野市役所訪問(小泉)
- 2 東難連運営委員会出席(草間)
- 福祉制度調査で東村山市役所訪問(井上)
- 5 福祉制度調査で瑞穂町役場訪問(小泉)
- 6 『東腎協』 No.62発送準備(石川みさ、中田)
- 会計記帳(竹田)
- 7 福祉制度調査で八王子市役所訪問(小泉)
- 各区市町村へ礼状発送
福祉制度調査で7区役所訪問(草間、石川みさ)
- 10 訪問(草間、石川みさ)
- 第6回腎バンク登録者拡大全国いつせい街頭キャンペーン実行委員会開催(石川勇吉、柳、森、市村、小泉、牧山)
- 11 福祉制度調査で練馬、豊島区役所訪問(草間)
- 福祉制度調査で足立区役所訪問(石川みさ)
- 13 福祉制度調査で北、荒川、台東、墨田、江戸川、川東区役所訪問(草間、石川みさ)
- 14 都議会請願署名整理(井上)
- 17 第86回常任幹事会開催(18人)
- 19 常任幹事会報告作成
- 20 都議会請願の紹介議員お願いの件で井口秀雄都議(民主主ク)事務所訪問
- 21 各幹事宛常任幹事会報告、全腎協事務局ニュース、全腎協実態調査表を発送
- 22 衛生局特殊疾病対策課訪問、腎移植推進月間国民大会について打合せ
- 23 腎バンク街頭キャンペーンの会場の件で都・衛生局特殊疾病対策課、中央区役所訪問(森)
- 24 都議会請願書提出受理される署名人数二万六千三百四十三人(石川、森、草間)
- 25 上期会計報告作成(竹田)
- 26 『東腎協』 No.63編集打合せ
- 27 腎バンク街頭キャンペーンの会場の件で都・衛生局特殊疾病対策課、中央区役所訪問(森)
- 28 『東腎協』 No.63編集打合せ
- 29 三期会議報告作成(木村)
- 東難連主催『養胞腎・ネフロロゼ講演会』出席(石川勇吉、草間)
- 23 キャンペーン配布用カッターバン作業(柳、竹田、木村、山田)
- 24 八王子警察へキャンペーン時の道路使用許可申請に行く(小泉)
- 25 キャンペーン配布用カッターバン作業(石川みさ)
- 国民年金障害年金、児童扶養手当に関する全腎協の厚生省交渉に出席(石川勇吉、森、泉山、小林他)
- 26 キャンペーン配布用カッターバン作業(竹田、石川みさ)
- 機関誌『東腎協』 No.63編集(加藤)
- 27 都議会各派訪問、秋田かくお(共産党)、甲斐孝喜都議(公明党)、尾崎正一郎都議(社会党)に都議会請願の紹介議員をお願いをする(森)
- 28 自民党、社会党、民主クラブの各政調会へ来年度予算に関する要望書を提出(森)
- 29 腎臓病無料医療相談会開催(受診者32人)
- 30 都議会請願の紹介議員お願いの件で立石晴康都議(自民党)事務所訪問(森)
- 31 三役会議開催(石川勇吉、柳、森、竹田、一ノ清)
- 『東腎協』 No.63編集会議(加藤、草間、木村)
- 32 三役会議報告作成、発送
- 東難連主催『養胞腎・ネフロロゼ講演会』出席(石川勇吉、草間)
- 33 キャンペーン配布用カッターバン作業(石川みさ)
- 国民年金障害年金、児童扶養手当に関する全腎協の厚生省交渉に出席(石川勇吉、森、泉山、小林他)
- 34 キャンペーン配布用カッターバン作業(竹田、石川みさ)
- 機関誌『東腎協』 No.63編集(加藤)
- 35 都議会各派訪問、秋田かくお(共産党)、甲斐孝喜都議(公明党)、尾崎正一郎都議(社会党)に都議会請願の紹介議員をお願いをする(森)
- 36 自民党、社会党、民主クラブの各政調会へ来年度予算に関する要望書を提出(森)
- 37 腎臓病無料医療相談会開催(受診者32人)
- 38 都議会請願の紹介議員お願いの件で立石晴康都議(自民党)事務所訪問(森)
- 39 三役会議開催(石川勇吉、柳、森、竹田、一ノ清)
- 『東腎協』 No.63編集会議(加藤、草間、木村)
- 40 三役会議報告作成、発送
- 東難連主催『養胞腎・ネフロロゼ講演会』出席(石川勇吉、草間)
- 41 キャンペーン配布用カッターバン作業(柳、竹田、木村、山田)
- 42 八王子警察へキャンペーン時の道路使用許可申請に行く(小泉)
- 43 キャンペーン配布用カッターバン作業(竹田、石川みさ)
- 44 機関誌『東腎協』 No.63編集(加藤)

30

八王子警察署へキャン
ペーン時の道路使用許可
書の受け取りに行く。毎
日、読売新聞の支局へ街
頭キャンペーンの取材を

10月

2

公明党訪問 62年度・予
算に関する要請(石川
勇吉、森、草間)

3

会計記帳(竹田)
腎移植推進国民大会参加
(84人)

5

第6回腎バンク登録者拡
大全国いっせい街頭キャ
ンペーン実施(20人)

8

会計記帳(竹田)
東難連主催、社会党への
62年度・予算要請に出
席(石川勇吉)

正(加藤)

13

フジテレビ「露木茂のT
OP情報」の出演者とし
て関さん(大和病院)井
上さん(慈秀病院)の2
名を紹介する

14

9月分会計報告書作成
平沢氏の東難連会長10
年、東京都衛生局長表彰
式に出席(森)

16

東難連主催62年度・予
算に関する共産党への要
請行動に出席(森)

16

衛生局特殊病対策課へ
街頭キャンペーンのお
礼、東京都腎不全研究会
要綱と委員名簿受領(泉
山、森)

18

ボウリング大会の賞品購
入(柳、森)

18

全腎協幹事会(石川
勇吉、一ノ清、高橋、草
間、泉山、小林)

職業紹介業務担当者研修
会資料作成

21

機関誌「東腎協」No63を
個人会員に発送

22

機関誌「東腎協」No63を
患者会宛発送準備(石川
みさ)

23

労働経済局 心身障害者
職業紹介業務担当者研修
会資料作成

26

日本ボイスアウト東京
連盟にキャンペーンの協
力に対して感謝状を送る
(柳、森)

26

第88回常任幹事会開催
(14人)

28

常任幹事会報告作成
国民年金障害年金支給停
止の件で都・福祉局社会
保険指導部福祉年金課、
社会保険管理部企画課へ
要請(石川勇吉、森)

日患協街頭署名(高橋、
草間)

6

柳、小泉1集合したが雨
天のため中止

5

会計記帳(竹田)
都・福祉局社会保険管理
部企画課石井監査第二係

7

「全腎協」No88発送(石
川みさ)

8

平山クリニック吉原さん
と面談(小泉)

9

ボウリング大会(72人)
10月分決算(竹田)

10

芳賀さん(代々木病院)
の国民年金障害年金の支
給停止を取り消す旨練馬
社会保険事務所から本人
に連絡があった

11
11月
東難連運営委員会出席
都・福祉局社会保険管理
部企画課石井監査第二係

15

公立昭和病院訪問(竹田)
三役会議開催(石川、一
ノ清、高橋、柳、草間、
竹田)

16

結果、支給停止を取り消
すことになった旨連絡が
あった

17

都庁要請 衛生局特殊疾
病対策課、企画室、医療
対策課、労働経済局職業
課、福祉局計画課(森)

18

年金学習会出席 草間
井上、石川みさ、笹川

20

児童扶養手当の見直し状
況を藤原児童手当係長に
電話で確認する

22

12
12月
西八診療所訪問(井上、
小泉)

10月分収支報告書作成
(竹田)

26

会計記帳(竹田)

27

関東ブロック会議準備
宿泊、会議室確認、夕食、
朝食手配等

- 28 都・住宅局要請(泉山)
- 29 三役会議開催(石川、一ノ清、高橋、柳、森、竹田)
- 27 (石川みき、事務局) 福祉のまちづくり整備指針試案作成委員会出席(平沢)
- 25 『全腎協』No.89発送(石川、笹川)
- 5 会計記帳(竹田)
- 6 東難連運営委員会出席(平沢)
- 6 17 関東ブロック会議出席(石川勇吉、一ノ清、高橋、森、小泉、加藤)
- 5 国際障害者年日本推進協議会主催「長期行動計画推進全国会議」出席(井上、笹川、柳、糸賀)
- 8 11月分収支報告書作成(竹田)
- 8 関東ブロック会議費用清算
- 11 『東腎協』No.64編集(加藤)
- 13 区市町村福祉制度打合せ(草間、井上)
- 15 常任幹事会資料作成
- 21 第90回常任幹事会開催(17人)
- 22 第90回常任幹事会報告作成、発送
- 24 『全腎協』No.89発送準備
- 27 都・衛生局、福祉局へ年末の挨拶(石川勇吉、森)
- 27 局)
- 26 日患協昭和62年度予算復活要請行動参加(竹田、糸賀、中田、牧山、大掃除(石川みき、事務局)
- 27 都・衛生局、福祉局へ年末の挨拶(石川勇吉、森)
- 1 月
- 5 第91回常任幹事会開催案内状発送
- 6 都・衛生局、福祉局、労働経済局へ新年の挨拶(森)
- 6 『東腎協』No.64入稿(加藤)
- 7 61年度活動報告作成
- 9 都・障害者福祉会館上期
- 12 10 61年度活動報告作成
- 12 62年度役員候補推薦のお願い、幹事会開催案内状発送(石川みき)
- 12月分収支報告書作成(竹田)
- 16 61年度活動報告作成
- 17 西クリニック腎友会代表佐藤氏他2名、東腎協入会のため来局
- 18 三役会議開催(石川勇吉、柳、森、竹田)
- 19 第91回常任幹事会開催(13人)
- 19 常任幹事会報告作成
- 20 『東腎協』No.64発送(加藤、笹川)
- 21 第91回常任幹事会報告発送、視力障害合併者実態調査票発送
- 22 国会請願署名整理(井上)
- 24 東難連運営委員会出席(平沢)
- 29 児童扶養手当対都交渉(18人)
- 30 王子病院廃止反対国会請願参加(泉山)
- 30 福祉局老人福祉部訪問
- 30 老人保健法改定による医療費助成について説明を受ける(石川勇吉)
- 30 福祉局の身体障害者・児実態調査説明会出席(竹田)
- 2 月
- 4 1月分収支報告作成(竹田)
- 5 福祉局児童部育成課へ見扶資格喪失に係わる異議申立て提出(森)
- 10 全腎協国会請願行動参加(18人)
- 15 第92回常任幹事会開催(20人)
- 16 議案書入稿(加藤)
- 17 日患協国会請願行動参加(石川勇吉、加藤、小泉、小林)
- 19 議案書校正(加藤)
- 22 第18回幹事会開催(41人)
- 22 『東腎協』No.66編集打合せ(加藤、草間、木村)

昭和62年度活動方針(案)

国の一般会計予算が五年連続ゼロ・ペースという中で、防衛費の伸び率は前年度比五・二%増と突出し、昭和五十一年以来その歯止めとされてきたGNP比一%増をついに突破しました。

一方、社会保障費は、約八千億円と見込まれる当然増さえ全額は認められず、その分は結局私たち国民に転嫁されています。児童扶養手当の打ち切り、障害基礎年金の実質的な支給制限、老人保健法の改悪など、私たちの生活は次々と押し寄せる大波にさらされています。

また、医療の面でも厚生省は、膨張する医療費の抑制策を検討するため「国民医療総合対策本部」を設置し、費用の面だけでなく医療の本身のものも合理化していくとしています。患者増によって増大する透析医療費もまたその矢面に立たされるでしょう。

このような状況の中で、私たちは、もうこれ以上透析患者を増や

さないように、また不幸にして病気になることも誰でもが安心して治療に専念でき、そして社会復帰ができるよう「腎疾患総合対策の確立」を提唱しています。

東京都においては、一般会計が前年度に比べ六・九%増と、国に比べて積極予算となっています。

しかし、私たちの要望事項の中では、腎バンクなどの登録者拡大のキャンペーン費用などとして六百万円が認められましたが、腎疾患総合対策委員会については、昭和六十一年度に「腎不全研究会」が設置されましたが、他府県に比べこの面で立ち遅れているのが現状です。

今年度は、「腎疾患総合対策の確立」を目指し、次のような運動を進めます。

一、活動目標

1、腎臓病の研究、予防、治療から社会復帰まで含めた腎疾患総合対策を確立するため運動

をすすめます。

2、腎提供者確保のため運動をすすめます。

3、医療、福祉制度の全国的な問題に対しては、積極的に全腎協と共に運動をすすめます。

4、国立王子病院の透析医療を存続させるため、統廃合に反対の運動をすすめます。

5、東難連と連携、協力して医療と福祉のための運動をすすめます。

6、会員交流会を開催します。

7、東腎協結成十五周年記念として下記の事業を行います。

①記念講演会を行います。

②会員証を作成します。

③会旗を作成します。

8、機関誌「東腎協」を定期発行します。

9、腎臓病の知識普及に努めます。

10、会員拡大をはかり、次の総会までに四千人を目標とします。

11、ブロック別の患者会役員交流会を開催します。

12、第十七回全腎協総会にバスで参加します。

13、要望事項実現のため、都庁要請、都議会要請を行います。

14、中、長期目標については、展望委員会などで継続的に論議を深めます。

二、東京都及び都議会各党に対する

陳情、要請活動

陳情、要請活動

(1) 医療体制の整備に関する要望

1、東京都における腎疾患総合対策を確立するため、「東京都腎不全研究会」を早期に発展させ、患者代表を含めた対策委員会を設置すること。

2、腎移植普及のため、患者代表を含めた腎移植推進会議を設置すること。さらに、広報活動の強化など腎臓提供者確保体制を確立すること。

3、すべての都立病院に腎外来を設置し、外来透析及び夜間透析を実施、拡充すること。

4、養育院付属病院で人工透析を実施すること。

5、腎臓病の早期治療から腎移植手術まで可能な、都立の総合腎センターを設置すること。

6、亀有及び多摩地区に設立予定

の地域病院で、外来透析及び夜間透析を実施すること。

7、大島、八丈島などの島しょでも透析治療が受けられるようにすること。

8、乳幼児、児童、生徒、学生、勤労者、家庭婦人、自営業者などに対する検尿を完全実施し、管理体制を確立すること。

9、小中学生については、「腎臓手帳」の発行による管理体制を推進すること。

10、災害時の緊急透析治療体制及び病院までの交通を確保すること。

11、区市町村で福祉対策を拡充すること。

(2)医療費、生活保障に関する要望

1、慢性腎炎患者の医療費を公費負担すること。

2、内部障害者は、四級まで医療費を公費負担すること。

3、心身障害者福祉手当を増額し、所得制限を引き上げること。

4、東京都の職員に人工透析をしている障害者を採用すること。

5、腎機能障害者の雇用を促進すること。

昭和62年度スローガン案

一、予防から社会復帰にいたる腎総合対策の確立を！

二、腎総合センターの設立を！

三、腎臓病の治療、研究促進を！

四、慢性腎炎患者の医療費公費負担を！

五、国立王子病院の存続を！

六、都立病院で夜間透析の実施を！

七、腎バンク登録の拡大を！

八、働ける腎臓病患者に社会復帰の道を！

九、区市町村での福祉対策の充実を！

十、活動内容を充実し、四千人の東腎協を！

総会宣言(案)

今秋、私たち東腎協は結成15周年を迎えます。今から15年前、私たちは幾多の困難を乗り越え、多くの仲間と共に闘った結果、国や全国の自治体に先駆けて、透析医療費の自己負担分の公費負担を始め、心身障害者福祉手当の支給、心身障害者医療費助成の実施、都立大久保病院における本格的な腎不全センターの設置などの腎不全対策や福祉対策の前進をかちとってきました。

今日、こうした社会的な対策の充実や透析医療技術の著しい向上の結果、国内では7千人を超える透析患者が治療を受け、その多くが社会復帰をし、さまざまな分野で活躍しています。

しかし、一方で私たちの生活は厳しい状況にさらされています。社会保障後退の荒波は、私たちを押しつぶさんばかりの勢いで押し寄せてきています。たび重なる透析医療費の切り下げは、医療供給体制への不安を招くばかりでなく、透析医療の質そのものの低下にもつながりかねません。

透析患者の家庭を狙い撃ちした児童扶養手当の打ち切りは、障害にもめげず必死で子を養育している家庭に対して、あまりにも冷たい行政ではないでしょうか。さらに老人保健法の改悪などもありました。

私たちは、医療と福祉の後退をもはや許しません。私たちは、透析医療や腎臓移植などのいっそうの前進を目指して運動をすすめます。

私たちはこれまで、「腎疾患総合対策」確立のための運動を強力に推し進めてきました。そして、昨年10月ようやく「東京都腎不全研究会」が設置され、東京都における腎疾患総合対策への新たな研究・検討が始まっています。

私たちは、腎臓病患者をこれ以上増やさないためにも、腎臓病の早期発見・早期治療から腎移植を含めた腎不全治療体制、さらに社会復帰に至る「腎疾患総合対策」の確立を目指す運動をさらに強めていきます。

昭和62年4月5日

東京都腎臓病患者連絡協議会
第15回総会

全野鳥協・日慈協国会諸願署名・募金集計表

(1987. 2. 9現在)

順	会 名	全野鳥署名	日慈協署名	募 金 額	協 会 名	全野鳥署名	日慈協署名	募 金 額
1	あけぼの病院友の会	1,390	1,419	67,710	39 高松病院成徳野鳥友会	0	0	0
2	青山会	60	60	6,000	40 竹口病院野鳥友会	200	200	21,650
3	飯田織クワリニツク野鳥友会	343	345	15,000	41 立川共済病院野鳥友会	0	0	0
4	和泉クワリニツク野鳥友会	310	310	14,000	42 立川第一相互病院野鳥友会	718	699	28,980
5	飯沼内科野鳥友会	188	188	20,000	43 彌布病院野鳥友会	1,206	1,212	54,300
6	今風医院野鳥友会	297	307	0	44 彌布東山病院野鳥友会	444	453	16,080
7	入谷クワリニツク野鳥友会	177	177	22,000	45 チャペルセンター	0	0	0
8	上野しのばす会	1,612	1,242	28,800	46 月島サマリア野鳥友会	511	521	51,500
9	大田病院野鳥友会	230	230	13,000	47 帝京大平病院野鳥友会	206	199	45,000
10	大橋クワリニツク野鳥友会	291	291	19,200	48 東京共済病院野鳥友会	90	88	2,000
11	大山中野鳥友会	576	561	41,500	49 中島病院野鳥友会	89	89	10,000
12	小笠原クワリニツク野鳥友会	611	611	49,560	51 長瀬三和クワリニツク野鳥友会	38	38	5,000
13	瀬本病院野鳥友会	613	611	54,000	52 西新井病院野鳥友会	129	129	0
14	榊島病院ニワ友の会	3,342	3,317	114,395	52 西新井病院野鳥友会	790	570	50,000
15	北野病院野鳥友会	447	443	19,935	53 西池袋緑明会	296	301	32,000
16	北多摩病院野鳥友会	553	552	31,440	54 西クワリニツク野鳥友会	38	38	3,500
17	吉祥寺クワリニツク野鳥友会	913	896	54,000	55 日神ビルクワリニツク野鳥友会	888	760	56,487
18	香林野鳥友会	500	510	28,200	56 拝島三井クワリニツク野鳥友会	100	100	0
19	京葉病院野鳥友会	176	195	12,000	57 八王子野鳥クワリニツク野鳥友会	354	300	6,000
20	西分寺南クワリニツク野鳥友会	599	577	30,800	58 東池袋サンキヤン会	325	309	21,780
21	国立王子病院野鳥友会	385	382	19,920	59 東神田クワリニツク野鳥友会	180	170	22,800
22	三和会	103	103	10,000	60 東高円寺クワリニツク野鳥友会	859	904	56,900
23	三軒茶屋協賛野鳥友会	1,104	1,117	44,040	61 豊生会	405	351	29,700
24	豊原町おむすびわり会	273	253	25,200	62 1,177人参加のための署名用紙未配布	0	0	0
25	昭和大学附属百会の会	43	40	7,500	63 瀬子住協賛河原会	92	93	22,500
26	昭和大学附属百会の会	1,079	1,090	44,820	64 南多摩病院のぼら会	383	383	26,000
27	松和会専修大野鳥支部	264	279	34,260	65 三の輪病院野鳥友会	0	0	0
28	松和会専修大野鳥支部	111	110	8,700	66 泰山病院友の会	299	282	10,950
29	白鳥野鳥友会	222	213	22,500	67 大和病院透析友の会	825	781	48,000
30	しろがね会	137	136	30,000	68 谷中三和クワリニツク野鳥友会	0	0	0
31	新・新橋クワリニツク野鳥友会	65	77	10,000	69 代々木病院野鳥友会	1,181	1,100	40,869
32	新小島クワリニツク野鳥友の会	355	333	39,600	70 両国クワリニツク野鳥友会	123	91	5,760
33	慈秀病院野鳥友会	868	825	60,930				
34	坂南クワリニツク野鳥友会	215	215	21,480	協 会 会 員 計	32,288	30,350	1,810,266
35	坂野友の会	1,583	1,495	73,660	個人会員 計	1,345	1,352	261,930
36	人工腎臓病の門・葦津会	558	906	68,460	合 計	33,633	31,702	2,071,296
37	すみれ野鳥友会	166	166	1,200	参考	31,949	24,560	2,043,382
38	すずらん野鳥友会	992	235	35,200				